E-Ladies

北陸でも電気工事の そんな"E-Ladies"に 技術者として活躍する女性が増えています。 お話を聞きました。

電気工事業で輝き、活躍する女性



電気工事士だった父と 同じ道へ進むことに。

福井県敦賀市の株式会社NYUTECで電気工事士と事務職を兼任しています。入社5年目、それ以前は調理師として働いていました。父が電気工事士だったので親しみのある職業ではありましたが、自分がその仕事に就くとはまったく思っていなかったんです。

NYUTEC代表取締役社長の石橋 直之は実の弟で、同じく電気工事士 の父の姿を見て育ち、電気工事会社 を立ち上げました。その会社が忙し くなって「事務作業を手伝ってほし い」と言われたのが入社のきっかけ です。当初は事務職でしたが、もと もと何かをつくることや体を動かす ことが好きだったので、社長の後押 しもあって資格を取得、電気工事士 として現場に出るようになりました。

現場の仕事は思っていた以上に 楽しくて、配線や器具取付の技術が 日々上達していくことにやりがいを 感じています。住宅の現場では、自 分の知らない照明器具や設備を見 てわくわくできるのも魅力ですね。

女性だからと区別されない。 そんな環境がやる気に。

女性だから特別ということはありませんが、住宅工事の施主さんが気軽に話しかけてくださるということはありますね。また、自分が施主だったら



どうしたいかな、と考えることもよく あります。先日も、屋外用コンセント の色を提案したら、喜んでもらえた ということがありました。美しさや きれいなことにこだわるのも女性の 強みかもしれませんね。

女性だから難しい、できないということはほとんどありません。反対に、女性だからと区別せずに接してくれることが、私のやる気につながっています。もちろん力仕事や高いところの作業など男性のほうが



向いていることもありますが、そういう時は周囲にサポートしてもらいながら、しっかりと自分の仕事をしていきたいと思っています。

電気工事士という仕事を 女性たちに知ってほしい。

女性が働く環境は年々整ってきていると感じますが、それでもまだ現場に出る女性が少ないのは事実です。私は電気工事が家業の家に育ったので特に抵抗なくこの業界に進みましたが、女性も働ける職種なのだと、女性たちにもまだまだ知られていないのではないでしょうか。たくさんの女性が活躍できる業界になるために、もっと世の中の人に知ってもらうことが重要だと思います。

今の私の目標は、電気工事技能 競技全国大会女性の部に出場する ことなんです。そのために、より高い 技術を身につけて上級資格も取得 し、どこの現場でも通用する電気 工事士になりたいと思っています。 いつかは後輩の女性電気工事士に 仕事を教えたりもしたいですね。

私のオフの過ごし方

元調理師でもあり、料理やお菓子づくりが好きです。お休みの日は子供たちと一緒に料理をしたりして過ごします。



電気工事士として働く上で、男性・女性はあまり 関係がない。今、そう思えるようになったのは、実は 姉(立木朋子)のおかげです。事務のサポートを お願いしていた姉が「現場に出たい」と言わな かったら、当社が女性電気工事士を現場に送り出 すのはもっと先だったことでしょう。現場で楽しそ うに働く姉の姿を見て、性別は関係ないのだと思え るようになりました。女性が現場で働くようになって、 よくなったことがたくさんあるんです。職人気質の 男性が多い現場では、女性のコミュニケーション 能力や気配りがとても貴重な役割を果たします。 また、男性とは見るポイントが違い、特に住宅の施工 では家事や子育てをしている経験が活かされている と感じます。さらに、一緒に働く男性たちにもよい 影響があり、現場の雰囲気が明るくなったのも大き な収穫だと思います。とはいえ、まだまだ女性が存分 に力を発揮できる環境とは言えない面もあります。 子育てをしながら現場で働くことは困難で、これは ひとつの会社だけで解決できる問題ではありませ ん。世の中や業界全体で意識を変えていくことが求 められるのではないでしょうか。これからも、どんどん 現場で活躍する女性が増えてほしいと考えており、



当社でも女性の採用 を促進していく予定 です。電気工事が 女性にとっても魅力的 な仕事であることを 積極的に発信して います。